

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 23 年 12 月 2 日)

子罕 第九

13 子 九夷に居らんと欲す。或ひと曰く、陋しきこと之を如何にせんと。子曰く、君子之に居らば、何の陋しきことか之れ有らんと。

九夷は未開地で風俗の乱れた所と解されています。中国本土から見て未開地・野蛮人という見方をしているので、中国の見方でいけば日本も未開地です。

或る人とは「陽虎」とも云われていますが、中国本土から見て優美ではない場所に、孔子が住むとしたらどんなものなのか。孔子が言うには、君子はそのような所にも問題ではなく、居れば自然と周りを教育するし感化させる。そして教育によって未開地と思われる所でも文化を発達させる自信はある。なかなか凄い自信です。

14 子曰く、吾 衛自ら魯に反り、然る後 樂正しく、雅頌 各 其の所を得たり。

孔子 68 歳の時に衛と云う国から、故国の魯に帰りました。孔子が魯に帰った時には古典音楽が混乱しておかしくなっていたので、それを正しく直してまた立派なものにしました。

今の日本では 65 歳から年金が支給されますが、これからの年金支給は 68 歳からと話が進んでいるようです。孔子がこれ以上流浪の旅が出来ないと思ったのが 68 歳ですから、2 千年以上前も今も変わらないなという縁を感じました。

15 子曰く、出でては 則ち公卿に事え、入りては 則ち父兄に事え、喪の事は敢て勉めずんばあらず、酒困を為さず。何か我に有らんや。

孔子が朝廷に出たら誠をもって仕えるし、家庭では父親や兄に仕えます。書いてはいませんが、妻子の面倒をみるという様なものも含まれていると思います。

葬式は一所懸命に務めるし、お酒を飲んでも酔っぱらう事もしない。こういう事は自分にとって何でも無い事です。

今サラリーマンにとって、この様な事が何でもないと云うのは大変な事です。

会社の上司は部下に氣を使って仕事をして貰っている。家庭は殺伐として目上の者を敬うという事が希薄になっている。葬式の時に一所懸命務めるというのも、あまり聞いた事がありません。たいてい社長の葬式より、社長夫人や副社長のお葬式に人が集まります。それは権力を持っている人に認めて貰いたい人が一斉に集まるからです。当の社長が亡くなった場合、集まる人数は先程の副社長や社長夫人に比べて、かなり減るとよく聞きますが、これもまた逆です。酔っ払って羽目を外さないというのもあまり今は聞かない...と云う事で、自分にとって平凡な道徳を守ることは何でも無い事だと孔子が云ったのは、今の時代では逆さまになっています。しかし、2 千年以上前の当時の中国でも逆さまだったと思います。